

資料編

赤字：前期基本計画からの変更箇所

1. 位置

兵庫県の中東部に位置する丹波篠山市は、大阪府（豊能郡能勢町）と京都府（南丹市）と接し、総面積は377.59k㎡です。

市境から40~50km圏内には、神戸、大阪、京都などの都市地域があり、鉄道ではJR福知山線（宝塚線）の複線電化による時間の短縮、自動車では阪神高速北神戸線、舞鶴若狭自動車道、京都縦貫自動車道の整備により、これら都市地域へのアクセスは1時間圏域となりました。

2. 自然

丹波篠山市は、周囲を、三嶽を最高峰とする多紀連山など400~800m級の山並みに囲まれた盆地状の形状をしています。この地は太古の昔、湖水であり、島状の丘陵地と盆地周辺の丘陵部には、1億年以上昔の地層である篠山層群が分布しています。盆地の中央部を加古川の上流部である篠山川が西流して瀬戸内海へ至るとともに、武庫川や日本海へ注ぐ由良川の源流があります。気候は、年較差、日較差ともに大きい内陸性気候が特徴です。

総面積の4分の3を森林が占めていますが、原生林などの自然植生やスギ、ヒノキなどの植林地植生も比較的少なく、大部分は人間の活動によって置き換えられた代償植生となっています。集落や人里に接し、人間の暮らしに大きく関わってきた「里山」では、多様な動植物が見られるとともに、集落周辺に広がる水田などの農地とあわせて、日本の原風景ともいわれる馴染み深い農村風景を醸し出しています。

3. 歴史

丹波篠山地方の歴史は古く、旧石器時代から中世にかけての複合遺跡である板井寺ヶ谷遺跡や、県内第2位の規模を誇る雲部車塚古墳などからうかがえます。

大化の改新以降、律令国家の支配が各地方に及び、この地方にも多紀郡が設置されました。また、多紀郡内には小野と長柄の2カ所に古代山陰道の駅家が置かれました。平安時代を迎える頃には、多くの荘園が開かれ、東寺領大山荘がよく知られています。

戦国時代には、八上城を拠点に波多野氏が多紀郡一帯を勢力下に置いていました。江戸時代には、徳川家康の命によって篠山盆地の中央に新たな城が天下普請により築かれ、築城地が「笹山」という丘陵地であったことから篠山城と呼ばれました。篠山藩は、松平氏3家が8代、青山氏が6代にわたり藩主を務め、その所領の中心は多紀郡で、現在の丹波篠山市のほぼ全域にあたります。

明治維新後、明治22年に市制・町村制が施行された際、多紀郡では1町17村が成立しました（その後、1町18村）。それから、幾度の合併を経て、最終的には多紀郡4町が合併して、平成11年4月1日に篠山市が誕生し、令和元年5月1日、市名を現在の丹波篠山市に改称して現在に至っています。

丹波篠山市は、古代の多紀郡設置以来、篠山藩の誕生と終焉を経て、丹波篠山市の発足に至るまで、ほぼ同じ区域を有し、その中で、人々は、数多くの歴史を刻み、様々な文化を育んできました。また、明治以降の約150年間、戦後の一時期を除いて人口が4万人台で推移してきた点や、私鉄資本がまちの中心部まで入ってこなかったことから、大規模開発が行われなかったなどにより、昔の姿があまり損なわれずに残っているという特徴があります。

4. 景観

丹波篠山市は神戸、大阪、京都から1時間の圏内に位置しながら、緑豊かな里山と田園風景が継承され、今なお日本の農村の原風景である「ふるさとの景観」に包まれています。また、小京都とも言われる中心市街地は、江戸期の城下町であり、河原町妻入商家群が国の重要伝統的建造物群保存地区（以下、「重伝建地区」）に指定されている歴史的な町並みの残る市街地でもあります。加えて、後年、旧宿場町などの面影が色濃く残る福住地区も重伝建地区に指定されました。福住と同様に宿場町であった古市や追入地区、丹波焼の窯元が立ち並ぶ今田町立杭地区、兵庫県一の茶の生産量を誇る茶畑の景観を有する味間奥地区など、地域特有の景観もよく継承されています。

一方、近年の大規模建築や建築物等の老朽化に伴う建替えなどにより、丹波篠山の自然・田園・歴史が調和した町並みが失われつつあります。先人たちが農業等を通して継承してきたこの地の景観は、日々の営みの積み重ねを通して形成してきたものであり、他の都市では失われた所も多いことから、その貴重さは一層増しています。

5. 文化

丹波篠山は、独自の歴史や風土を土台としながら、京文化の影響を受けてきた地方です。一方、丹波猿楽や人形芸能は、能楽や文楽の成立に大きな影響を与えるとともに、豊かな芸術文化の伝統を今に伝えています。また、日本六古窯の一つに数えられる丹波焼の起源は、平安時代末期まで遡るとされ、その作窯技法は国の無形文化財に選ばれています。

この地には、歴史的な町並み、祭りや民謡などの伝統行事、特産品や伝統工芸、郷土料理など有形・無形の伝統文化が数多くあり、また、伝統に培われた匠の技が、丹波焼や丹波杜氏、建築、農業技術などに受け継がれてきました。また、丹波篠山を語るうえで、丹波黒大豆、山の芋、栗、松茸、ぼたん鍋など、丹波篠山の大地の恵みである特産物とその食文化を抜きにはできません。それぞれのシーズンには丹波篠山の「食」を求めて多くの観光客が訪れるなど、「丹波篠山の農産物」として全国ブランドの地位を確立しています。

それらは人々の生活と密接な関わりを持ちながら、長い間大切に守り育てられてきました。この地に伝わる民謡デカンショ節の歌詞にも多く謡われてきたものが、さらに人から人へと受け継がれ、今なお暮らしの中に息づいているとして、平成27年、「日本遺産」を文化庁が創設した初年度に“丹波篠山デカンショ節 一民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶”として認定されました。また、続いて平成29年、前述の丹波焼が“きっと恋する六古窯 一日本生まれ日本育ちのやきものの産地”として他のやきもの産地とともに、日本遺産に認定されています。

また、こうした美しい景観や地域の文化資源を活かすことにより、市民の創造性を育むとともに、新しい産業やまちのにぎわいに結びつけることをめざす丹波篠山市の取り組みは、文化芸術を創造するまちとして高く評価され、ユネスコが提唱する創造都市ネットワーク（クラフト&フォークアート部門）への加盟が認められています。

第2次篠山市総合計画は、合併から11年が経過した平成22年度、次の10年を、合併後のまちづくりから自立して持続できるまちづくりへ移行する新たなステージと位置付け、その基本的な考え方とまちの将来像を示すことで、本市のまちづくりを、より発展的かつ具体的に推し進めることを目的として策定されました。ここでは、前計画で将来像や施策の大綱をどのように定め、取り組みを行ったかをふりかえります。

1. 将来像と基本方向の確認

第2次計画では、大きな課題として、財政再建（篠山再生計画－行財政改革編－）と人口減少社会への対応（篠山再生計画－まちづくり編－）があり、その他の課題も含めて、まちづくりの主な課題とそれに対する解決の糸口を次のとおり示していました。

【まちづくりの主な課題】

- (1) 人口減少と人口構造の変化への対応
- (2) 財政の再建とまちづくり
- (3) 分権型社会のさらなる進展と「新しい公共」を担う主体の広がり
- (4) 人のつながりの変化と地域づくり

【課題に対する解決の糸口】

- (1) 人と人、地域と地域などの結びつきを見直す
- (2) 小さな動きを大きくし、生きがいへ
- (3) 多様な参加によるまちづくりを進める
- (4) 田園景観を保全・整備し、創造

解決の糸口の方角を受けて、第2次総合計画の基本構想では、まちの将来像として、

①これまでから丹波篠山の農村の中で育まれてきた、「人」「社会」「環境（資源）」がバランスを保ちながら活力ある社会をつくっていくという「共生の暮らし方を実践する住みよいまちづくり」を『農』という言葉であらわし、継承して、発展させる。

②地域の活性化や経済社会の維持の活動の中で培われる人々の「意識」や「営み」、「素材づくり」を通じたさまざまな情報発信や提案活動などを行うという「新たな自信と活気をもたらすまちづくり」を『食』という言葉であらわして、創造する。

つまり、『農』の概念を土台として、『食』の概念を付加価値として上乗せする、というこの2点を基本として、

「人・自然・文化が織りなす食と農の都 ～篠山の時代をつくろう

～|

前頁の将来像を具現化する、まちづくりの基本方向（施策の大綱）としては、次の6点を掲げており、この基本方向に基づいて、さらに15の中目標と41の小目標を設定して、その目標ごとに取り組んできました。

- (1) 安心して暮らし続けられるまちづくり（分野：健康・福祉）
- (2) 安全で暮らしの環境が整ったまちづくり（分野：都市基盤・防災）
- (3) 心豊かな人を育む子育てしやすいまちづくり（分野：子育て・教育）
- (4) 田園景観や伝統行事の継承と新たな文化を育むまちづくり（分野：環境・景観・歴史文化）
- (5) 活力ある産業を興し、まちの資源を生かすまちづくり（分野：産業振興・農業・観光）

また、計画の実現に向けては、自治基本条例に規定する「参画と協働によるまちづくり」を掲げています。

2. 取り組みのふりかえり

基本構想に掲げる将来像、まちづくりの基本方向（施策の大綱）に従って、市民生活に関わる様々な分野で取り組みを進めてきました。基本方向に基づく事業ごとの小目標には、各個別の分野で計画を策定して取り組むとともに、成果指標（数値目標）を設定して、毎年度事業ごとに施策評価をしています。

多岐にわたる事業の中で、指標を達成できている事業もあれば、未達成の事業もあり、その中で、事業の拡充や改善、廃止というPDCAサイクルを意識して、推進してきました。

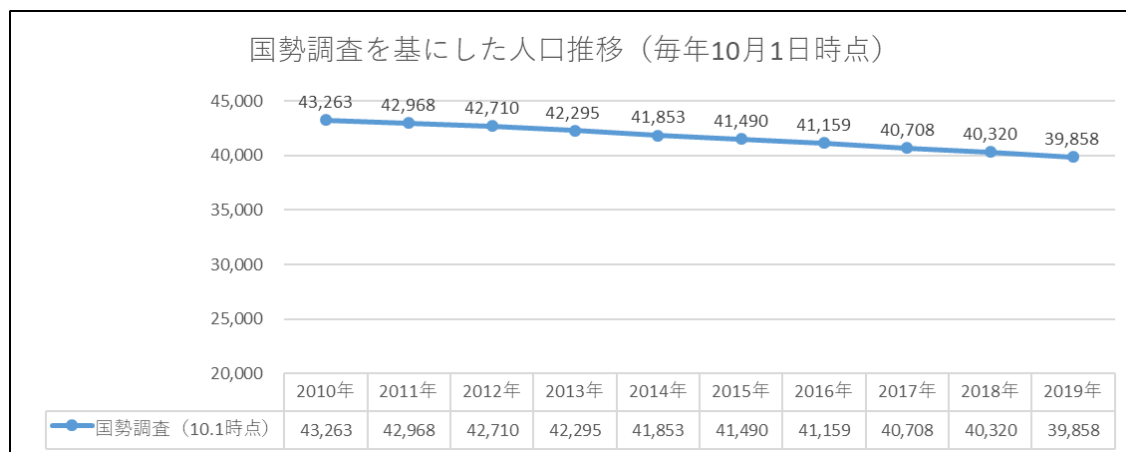
第2次総合計画期間中に取り組んだ主な取り組みは、次のとおりです。

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 【定住促進】 | ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動の推進 |
| 【地域づくり】 | まちづくり協議会への支援、地区まちづくり計画策定推進 |
| 【歴史・文化】 | 日本遺産の認定、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟 |
| 【景観】 | 都市景観大賞受賞、景観まちづくり刷新モデル地区への指定 |
| 【医療・福祉】 | 兵庫医科大学ささやま医療センターの存続に向けた再協定 |
| 【子育て】 | 味間・たき認定こども園の開園、医療費無償化 |
| 【防災】 | 原子力防災の取り組み |
| 【農都創造】 | 農業の担い手づくり、集落営農推進、鳥獣害対策の強化 |
| 【都市基盤】 | 道路、橋りょう等長寿命化、公共交通網の見直し |
| 【財政再建】 | 篠山再生計画の遂行 |
| 【ブランド】 | 丹波篠山市への市名変更 |

3. 人口のふりかえり

第2次総合計画では、10年後の人口の見通しを、平成17年の国勢調査を踏まえ、40,000人程度と見込み、政策的効果を加味して42,000人に留めることとしていました。

対して、実際は2019年で39,858人と、見込んでいた42,000人を下回る結果となりました。2010年と2019年間の減少数は3,405人で、1年平均で約380人の人口が減少しています。

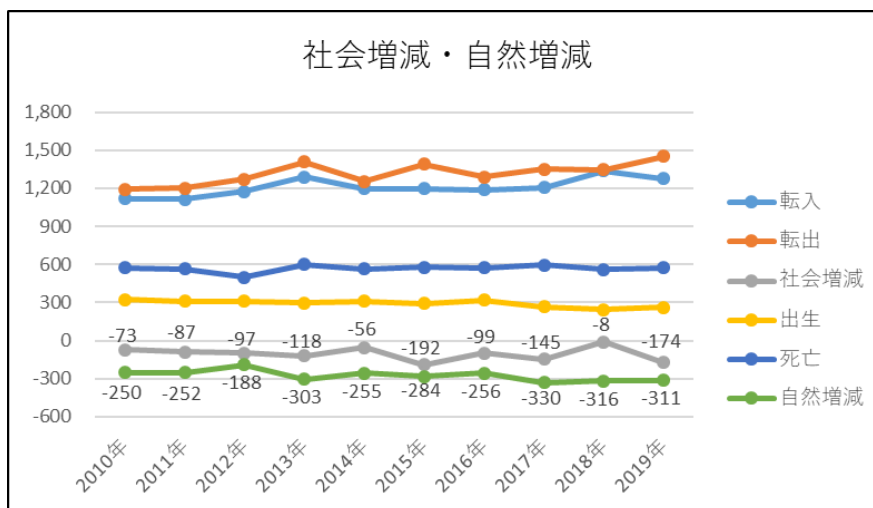


この結果については、日本国全体の傾向（日本全体が人口減少傾向社会に突入しながら、東京一極集中に歯止めがかかっていない状態）、かつ全国の自治体が競争している状態であり、丹波篠山市においても人口減少は例外ではなかった、という結果となっています。特に、消滅可能性都市といわれる、人口が激減する市町村が増えると謳われた、いわゆる増田レポート、さらに平成27年、国による地方創生の動き以降、地方の大都市までが人口獲得に向けて動き出したことから、「地方自治体による人口の取り合い」が起こったことが大きな要因であると考えられます。

人口の増減要因には、転入・転出の社会増減、出生・死亡の自然増減の2種類があり、丹波篠山市においては、その双方とも減少が続いています。

そのような中、丹波篠山市では、国が地方創生を提唱する以前の平成23年から「ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動」を第2次計画のシンボルプロジェクトの一つにも位置付けて展開し、定住人口の維持、拡大に向けて取り組んできました。人口減少が進む現状ではありますが、転出者が転入者を上回る社会減については、近年ある程度抑制されており、「住もう帰ろう運動」の効果の現れと認識しています。

もう一つ、人口増減の大きな要因として、出生・死亡の数が影響します。丹波篠山市では出生数に対し、死亡者は出生数の倍近い、という現象が大きく人口減に影響しました。



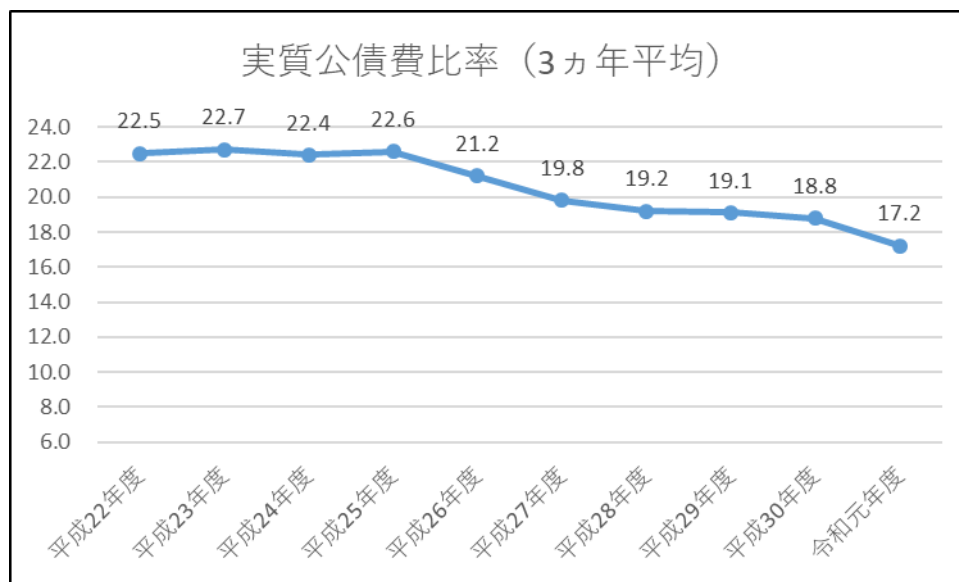
4. 財政のふりかえり

合併以前からの広域課題の解決に向けたさまざまな施策への取り組み、国の三位一体改革による地方交付税の大幅な削減などから、市の財政の収支バランスは崩れ、第2次計画期間がはじまった平成23年度には、深刻な財政状況に陥っていました。

財政状況の改善に向けて、平成20年度に「篠山再生計画－行財政改革編－」を打ち出し、職員定数の適正化や職員給与の引き下げ、公共施設の見直し、各種事務事業の見直しなどを掲げ、計画を推進し、効果額を算定して「再生計画推進委員会」において毎年度検証し、進捗状況を報告してきました。

当初、歳入歳出の収支バランスがとれるのが令和2年度になると見込まれていましたが、取り組みの結果、計画よりも1年前倒しの令和元年度末に収入が支出を上回りました。

自治体の財政状況の指標となる実質公債費比率は、令和元年度末には、起債の発行に際して県の許可が必要な18%を下回り、17.2%まで改善し、令和2年度にはさらに改善が見込める見通しとなっています。



第3章 アンケート、ワークショップから読み取れる市民意識

丹波篠山市の現状について、市民の現状認識と10年後の将来像（あるべき姿）を探るため、アンケート調査と市民ワークショップを実施しました。

1. アンケート

- ・調査対象 : 丹波篠山市内に在住の18歳以上の男女 2,000人
- ・調査方法 : 郵送配布－郵送回収
- ・調査期間 : 令和元年9月13日（金）～9月30日（月）
- ・回収状況 :

| 依頼数 | 回収数 | 回収率 | 有効回収数※ | 有効回収率 |
|-------|-----|-------|--------|-------|
| 2,000 | 824 | 41.2% | 817 | 40.9% |

※回収数のうち、白票については無効票として有効回収数には含まない

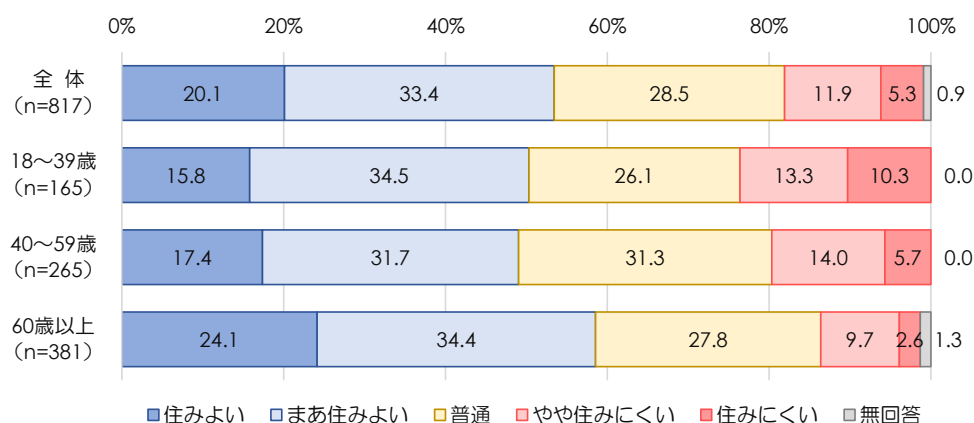
- ・調査項目
 - (1) 回答者属性
 - (2) 丹波篠山市での生活環境等について
 - (3) 丹波篠山のブランドについて
 - (4) 人口問題について
 - (5) 市政やまちづくりへの市民参画等について
 - (6) 丹波篠山市の施策について

・調査結果（抜粋）

※特筆すべき項目を抜粋して次項から掲載します。すべての調査項目については別途市ホームページで結果を掲載します。

■丹波篠山市での生活環境等について

問：あなたは丹波篠山市を住みよいと思いますか。(○は1つ)

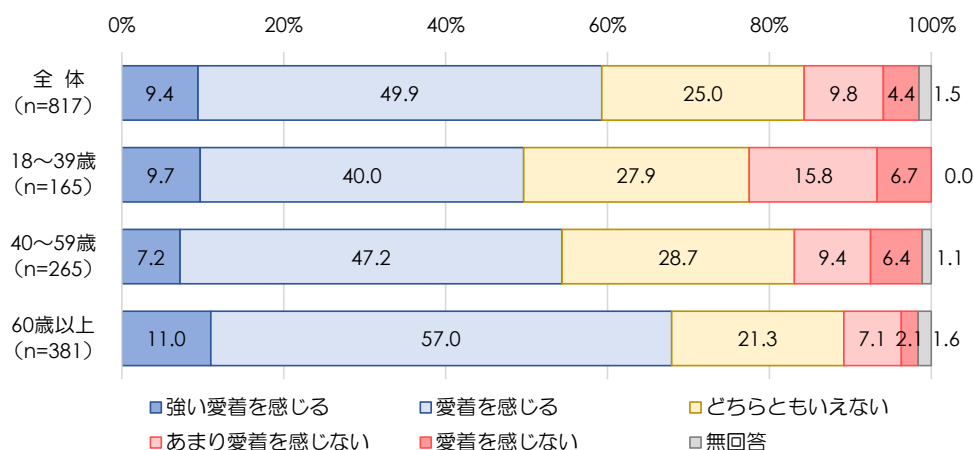


丹波篠山市について「まあ住みよい」が33.4%と3割を超えて最も多く、「住みよい」(20.1%)と合わせると、半数以上が『住みよい』と感じています。

年代別にみると、60歳以上で『住みよい』が6割近くを占めているのに対し、18~39歳・40~59歳では半数程度となっており、『住みにくい』(「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた割合)が2割程度を占めています。

■丹波篠山市への愛着

問：あなたは丹波篠山市やお住まいの地区などの身近な範囲に、日頃どのぐらい愛着を感じていますか。(それぞれに○は1つずつ)

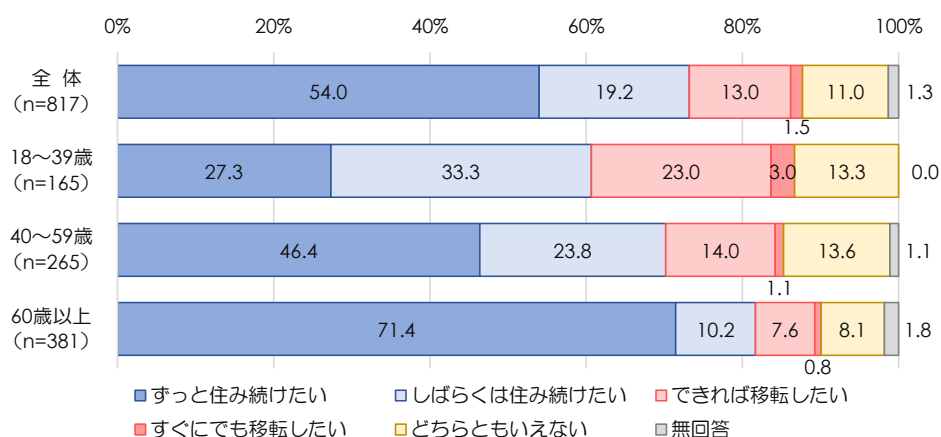


丹波篠山市への日頃の愛着では、「愛着を感じる」が49.9%と約半数を占めて最も高く、「強い愛着を感じる」(9.4%)と合わせると約6割が『愛着を感じる』と回答しています。

年代別にみると、60歳以上で『愛着を感じる』が7割近くを占めているのに対し、18~39歳・40~59歳では半数程度となっている。また、『愛着を感じない』(「あまり愛着を感じない」と「愛着を感じない」を合わせた割合)が2割程度を占め、特に18~39歳では2割を超えて高くなっています。

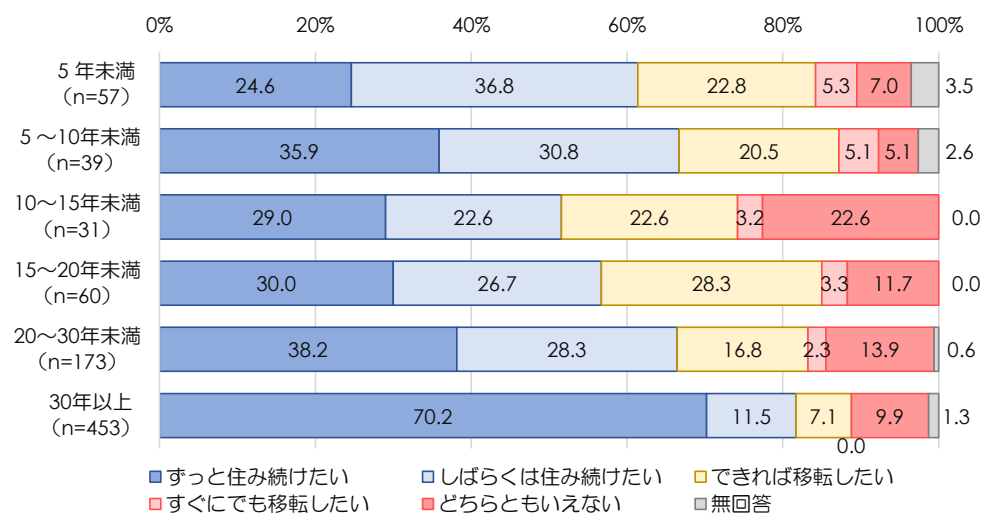
■丹波篠山市での今後の居留意向

問：あなたは、今後も丹波篠山市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)



丹波篠山市での今後の居留意向では、「ずっと住み続けたい」が54.0%と半数を超えて最も多く、「しばらくは住み続けたい」(19.2%)と合わせると、7割以上が『住み続けたい』と考えています。

年代別にみると、60歳以上で『住み続けたい』が8割以上を占めているのに対し、18~39歳では6割程度となっており、『移転したい』(「できれば移転したい」と「すぐにでも移転したい」を合わせた割合)が2割以上を占めています。

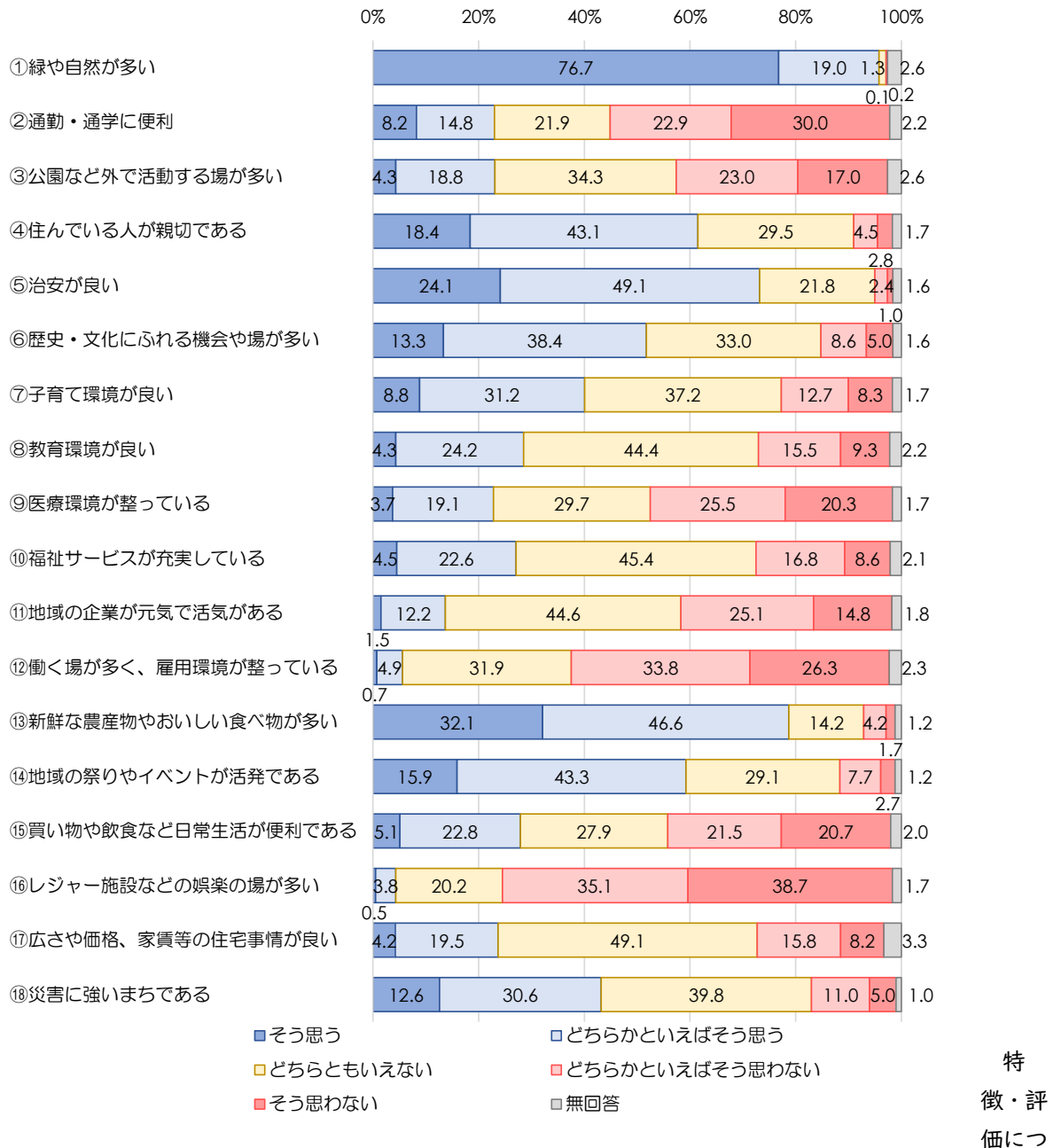


丹波篠山市への居住年数別にみると、『住み続けたい』が30年以上で8割を超えて最も高く、次いで5~10年未満・20~30年未満で6割以上を占めています。

一方で、『移転したい』では、10~15年未満で2割を超えて最も高く、その他の居住年数に比べてやや高くなっています。

■丹波篠山市の特徴（評価）

問：丹波篠山市はどのような特徴のあるまちだと思いますか。次のそれぞれの項目について、お答えください。（それぞれに○は1つずつ）

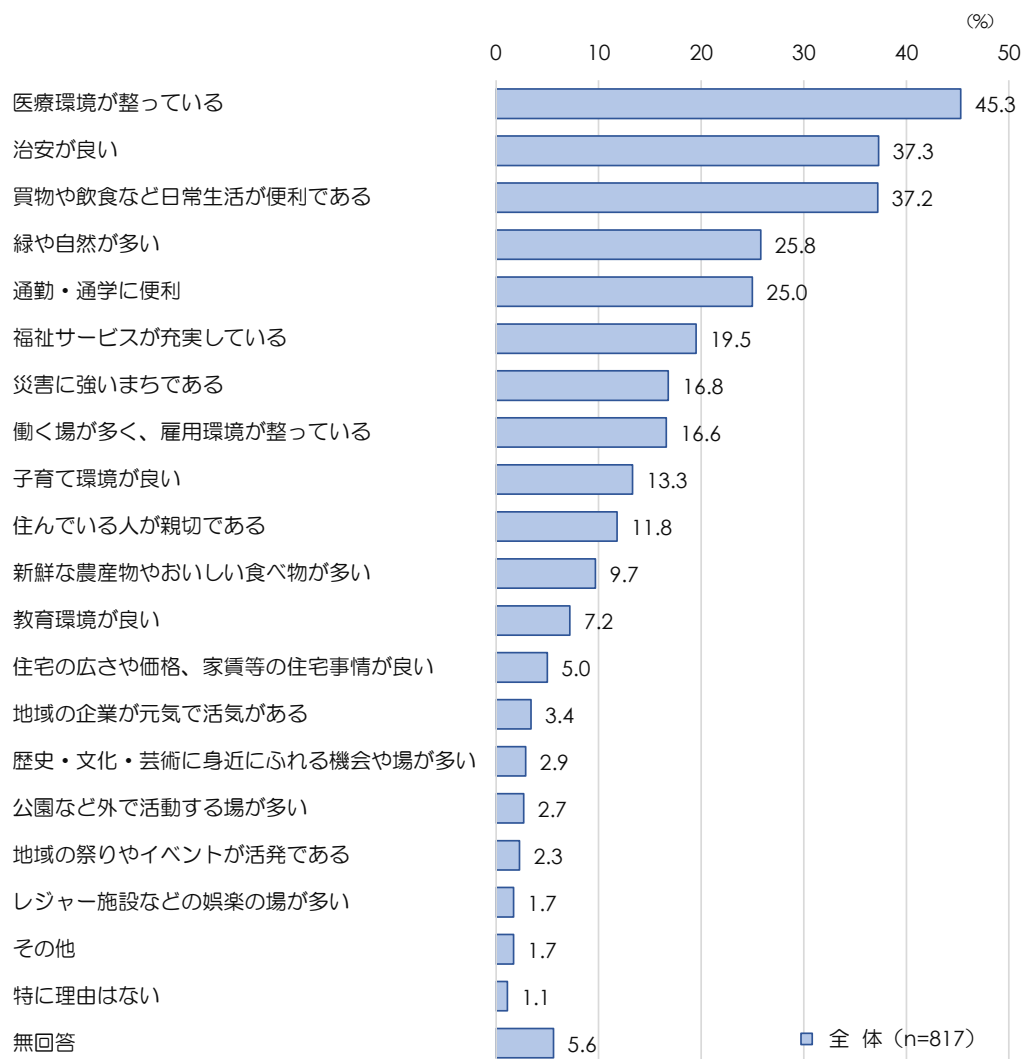


いては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合をみると、「①緑や自然が多い」で95.7%と最も高く、次いで“⑬新鮮な農産物やおいしい食べ物が多い”が78.7%、“⑤治安が良い”が73.2%の順となっています。

一方で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合をみると、“⑯レジャー施設などの娯楽の場が多い”が73.8%と最も高く、次いで“⑫働く場が多く、雇用環境が整っている”が60.1%、“②通勤・通学に便利”が52.9%の順となっています。

■居住環境として重要と考える項目

問：あなたが、居住環境として重要と考える項目は何ですか。(〇は3つまで)

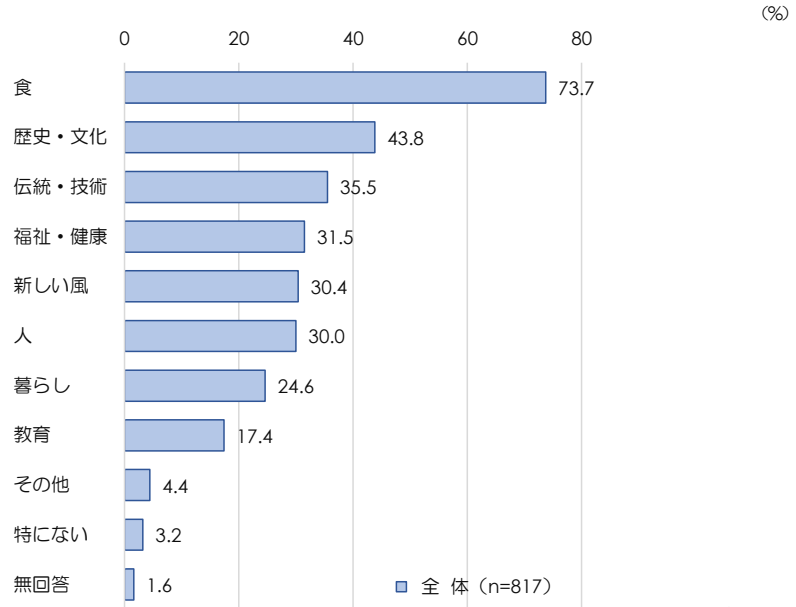


居住環境として重要と考える項目では、「医療環境が整っている」が45.3%と最も高く、次いで「治安が良い」(37.3%)、「買物や飲食など日常生活が便利である」(37.2%)、「緑や自然が多い」(25.8%)、「通勤・通学に便利」(25.0%)の順となっています。

前項目の丹波篠山市の特徴・評価結果と比較すると、重要と考えられている上位項目のうち、丹波篠山市では治安の良さ、緑や自然が多い、災害に強いまち、などでは評価が高くなっているものの、その他の項目では低い評価となっています。

■丹波篠山市の魅力を発信していく際の資源

問：今後、丹波篠山市の魅力を発信していく際の資源は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

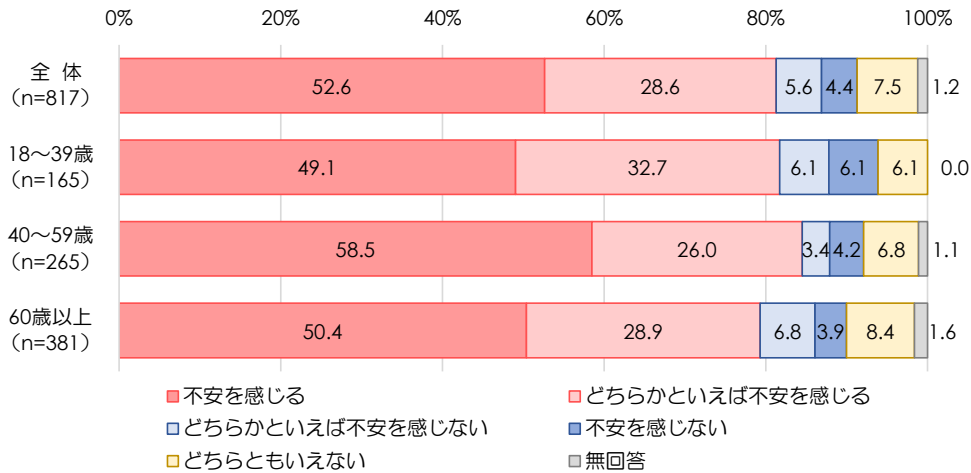


丹波篠山市の魅力を今

後発信していく際の資源では、「食」が73.7%と最も高く、他の項目と比べても突出して高くなっています。次いで、「歴史・文化」(43.8%)、「伝統・技術」(35.5%)、「福祉・健康」(31.5%)、「新しい風」(30.4%)、「人」(30.0%)の順となっています。

■人口減少の進行に対する不安

問：あなたは、今後、人口減少が進んだ場合、将来に不安を感じますか。



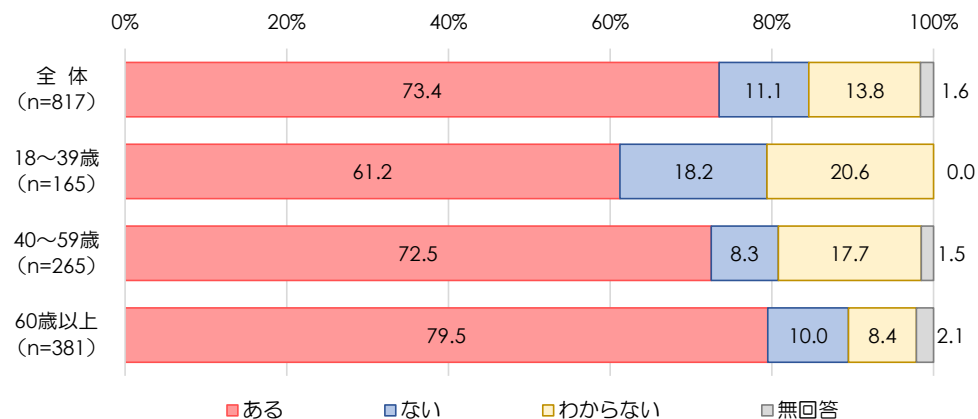
人口減少が進

んだ場合の将来への不安では、「不安を感じる」が52.6%と半数を超えて最も多く、「どちらかといえ

ば不安を感じる」(28.6%)と合わせると、8割以上が『不安を感じる』と回答しています。

■人口減少の実感の有無とその内容

問：あなたは、日常生活の中で「人口が減っている」と実感することはありますか。



日常生活の

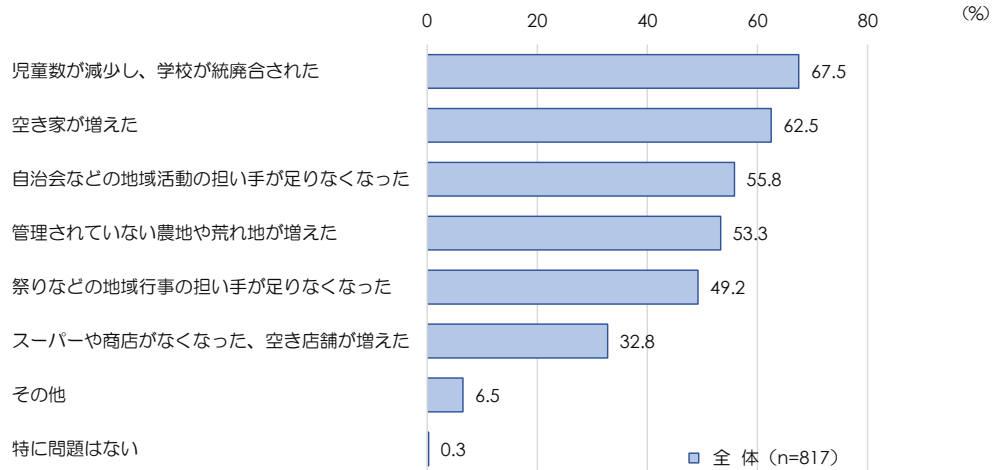
中で人口が減っていると実感することでは、「ある」が73.4%と大半を占め、「ない」が11.1%となっ

ています。

年代別にみると、概ね年代が高くなるにつれて「ある」が高くなっており、18~39歳では約6割

■人口減少により身の回りで発生している問題

問：【前項目で「ある」と回答した方に】人口が減ったことであなたの身の回りにどのような問題が発生していますか。(〇はいくつでも)

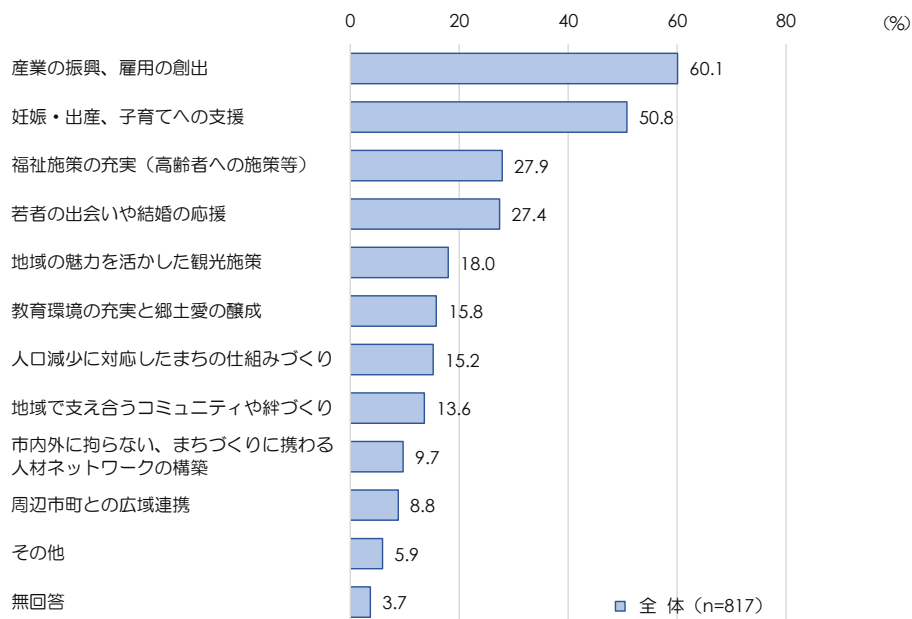


人口減少に

より身の回りで発生している問題では、「児童数が減少し、学校が統廃合された」が67.5%と最も高く、次いで「空き家が増えた」(62.5%)、「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなった」(55.8%)、「管理されていない農地や荒地が増えた」(53.3%)の順となっています。

■人口減少に対処するために力を入れるべきだと思う取り組み

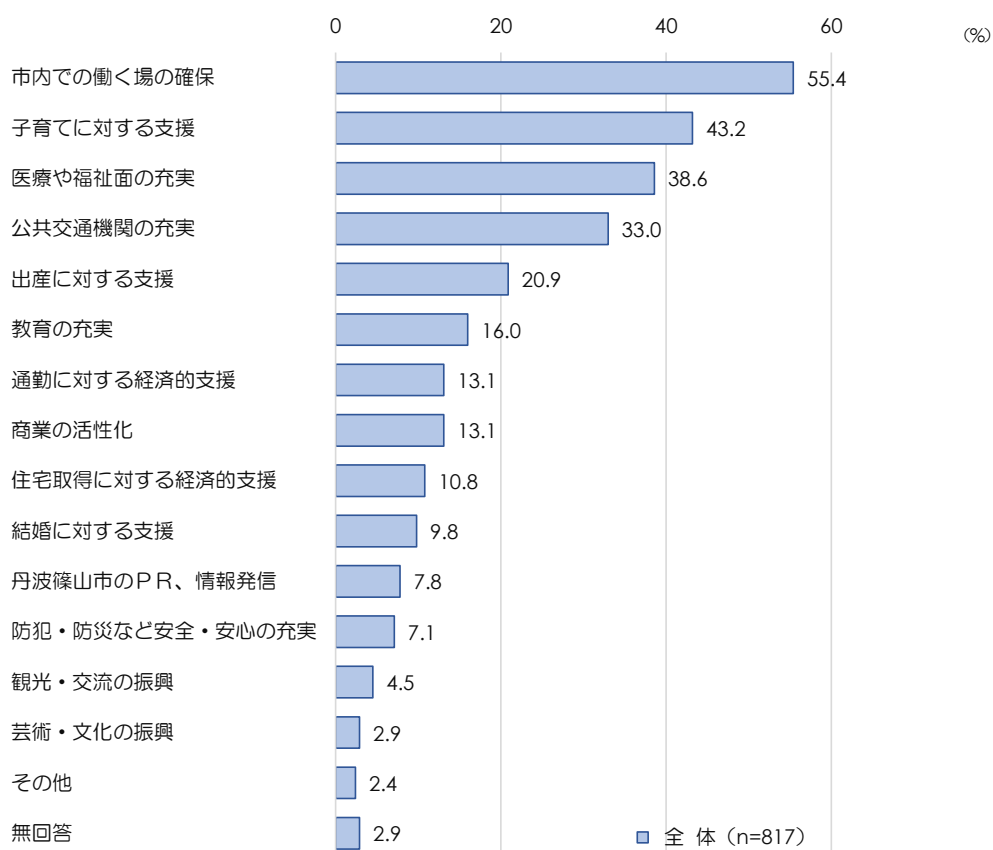
問：人口減少に対処するために、丹波篠山市ではどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)



人口減少に対処するために、力を入れるべきだと思う取り組みでは、「産業の振興、雇用の創出」が60.1%と最も高く、次いで「妊娠・出産、子育ての支援」(50.8%)、「福祉施策の充実（高齢者への施策等）」(27.9%)、「若者の出会いや結婚の応援」(27.4%)の順となっています。

■若い世代が丹波篠山市に住み続けるために力を入れるべきだと思う取り組み

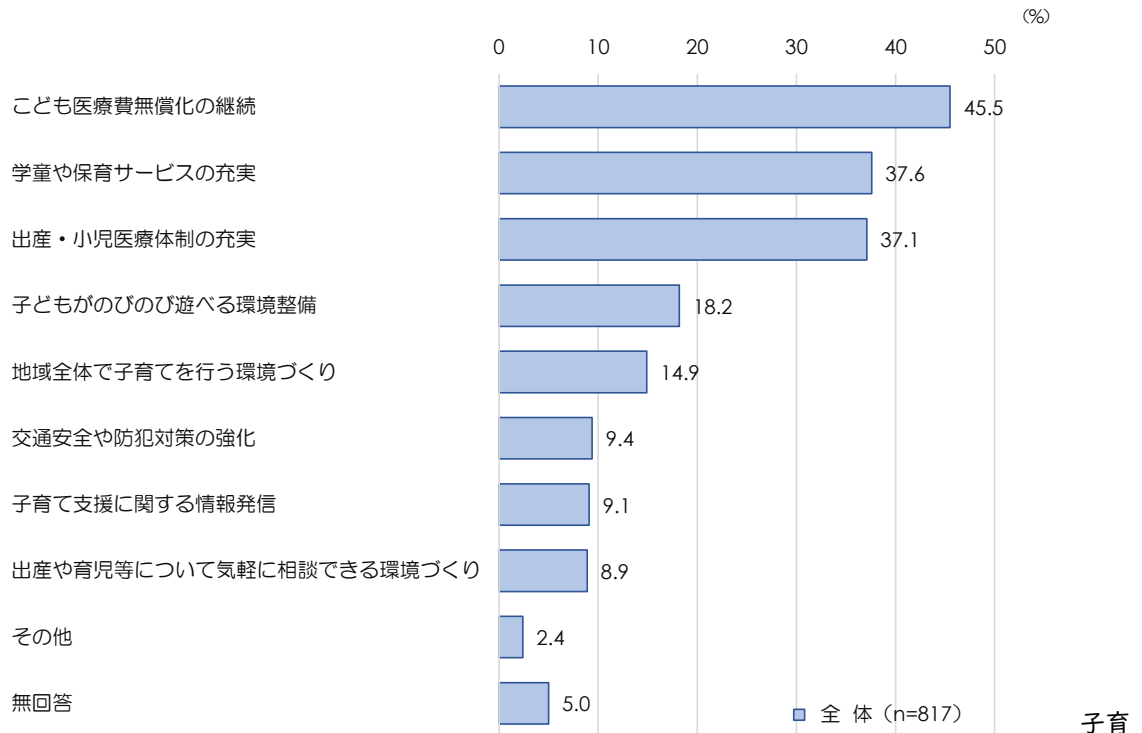
問：今後、若い世代が丹波篠山市に定住（住み続ける）していくためには、どのような施策に力を入れていく必要があると考えますか。（〇は3つまで）



若い世代が定住（住み続ける）していくために力を入れていくべき施策では、「市内での働く場の確保」が55.4%と最も高く、次いで「子育てに対する支援」(43.2%)、「医療や福祉面の充実」(38.6%)、「公共交通機関の充実」(33.0%)の順となっています。

■子育て支援策として重要だと思う施策

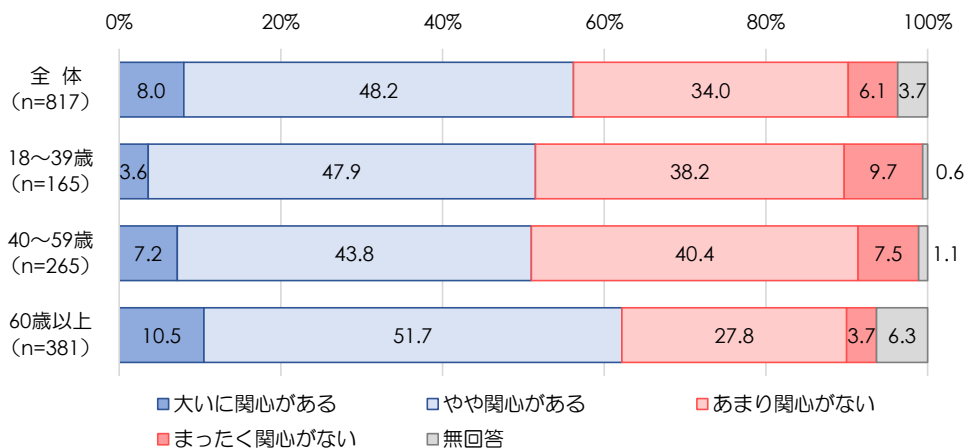
問：子育て支援策としてどのような施策が重要だと思いますか。(〇は2つまで)



て支援策として重要な施策では、「こども医療費無償化の継続」が45.5%と4割以上を占めて最も高く、次いで「学童や保育サービスの充実」(37.6%)、「出産・小児医療体制の充実」(37.1%)の順となっています。

■市民参加のまちづくり活動への関心

問：あなたは、市民参加のまちづくり活動に関心がありますか。(〇は1つ)



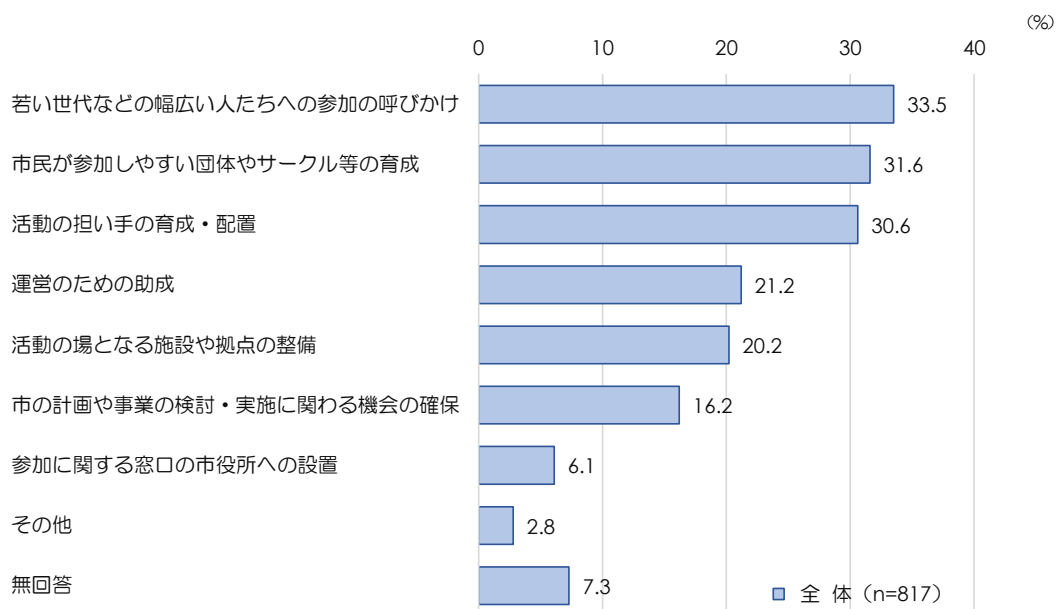
市民参加のまちづくり活動への関心度では、「やや興味がある」が48.2%と半数近くを占めて最も高く、「大いに興味がある」(8.0%)と合わせると6割近くが『関心がある』と回答してい

ます。一方で『関心がない』（「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた割合）が約4割を占めています。

年代別にみると、60歳以上で『関心がある』が6割を超えて高くなっているのに対し、18～39歳・40～59歳では半数程度となっている。また、18～39歳・40～59歳では『関心がない』が半数近くを占めています。

■ 市政やまちづくりに市民の参加を進めていくために重要であると思う施策

問：市政やまちづくりにおいて市民の参加を進めていくために、どのような対策が重要であると思いますか。（○は2つまで）

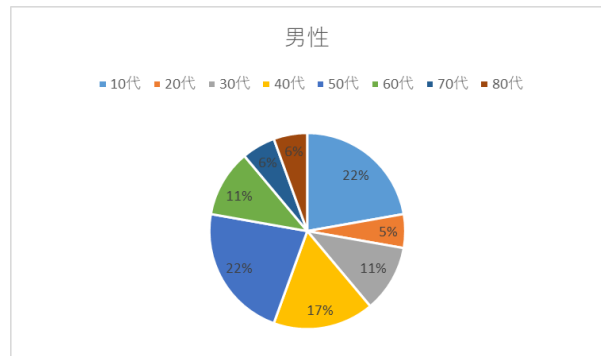
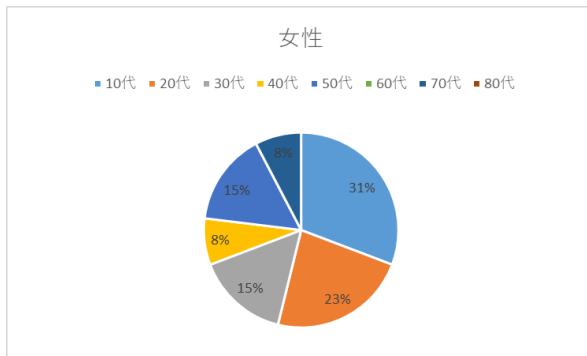


市政やまちづくりにおいて市民の参加を進めていくために重要な対策では、「若い世代などの幅広いひとたちへの参加の呼びかけ」が33.5%と最も高く、次いで「市民が参加しやすい団体やサークル等の育成」(31.6%)、「活動の担い手の育成・配慮」(30.6%)の順となっています。

2. ワークショップ

※令和元年10月5日（土）、10月11日（金）に計3回実施）

参加者：10代から80代の男女計31人（計6グループに分かれて）



【結果概要】

各グループから出てきた意見から、共通するキーワードを整理しました。

豊かな環境・豊富な地場産品

すべてのグループにおいて、環境や食べ物などの項目では良い点や魅力としての意見が多く挙がりました。環境面では、自然が豊かであることや歴史のある町並み・建物の存続、空気がきれいなどの意見、地場産品では、黒豆・枝豆・丹波栗・ぼたんなべ・ブルーベリーなどの地場産品が豊富であり、丹波篠山のブランドとなっているとの意見がありました。

一方で、その豊富な資源をうまく活用ができていないのではないかとといった意見もあり、市内外へのPRを含めた丹波篠山ブランドや住みやすい環境についての周知が必要です。

観光促進と住民生活の共存

デカンショ祭りやABCマラソンなどの大きなイベントなどの効果もあり、秋～冬の週末などでの観光客が増加しており、賑わいがあるなどの意見が多く挙がりました。

一方で、その影響による通行止めや観光バスの出入りによる居住者の生活への影響が出ているとの意見もありました。観光客や交流のメリットや市への効果を広報するなど、市民を含めた市全体での観光促進に向けた意識づくりが必要です。

空き家の活用

子どもを含めた人口減少により、空き家や空き商店などが増加しているとの意見がありました。一方で、転入者や起業にチャレンジする人も多くいることから、そのマッチングがうまくできれば活用できるのではないかといった意見もあり、利用したい人と利用してほしい人がつながる仕組みづくりが必要です。

子育て・教育環境の改善

子どもの減少対策として、子育て・教育環境の改善を求める意見が多く挙がりました。具体的には、妊娠・出産期を支える医療機関の充実、子育て期を支える公園や交流の場の充実、教育期を支える通学のための交通手段の充実といった意見がありました。

切れ目のない子育て支援を行うことで、出生の増加を図っていくことが必要です。

まちづくりへの参加の促進

今回のワークショップでは、中学生・高校生をはじめ、若い年齢層の参加が多くあり、まちづくりへの関心の高さがうかがえました。

若者自身が丹波篠山市の未来について考え、意見を出し、それが市の今後の姿に反映させることができるということを周知・広報することで、次世代の担い手としての育成が図られると考えます。今後も、会議やワークショップなどへの若者の積極的な参加を促進していく必要があります。

これらを総括して、グループ（計6グループ）ごとに“めざすまちの将来像”として掲げられたものは次のとおりで、策定議論の参考にしました。

- ・若い人がまちづくりに参画できるまち
- ・人情あふれる丹波篠山に人口減少の歯止めを
- ・安心・安全でみんなが笑顔になれる街
- ・すべてを受け入れるまち 丹波篠山
- ・人と自然が共存するまち
- ・野心的・戦略的な施策で資源が好循環するまち

【用語解説】

あ行

アウトリーチ

積極的に対象者のいる場所に出向いて働きかけ、さまざまな形で、必要な人に必要なサービスと情報を届けること。

空き家バンク

空き家の売却や賃貸を希望する所有者の物件情報を登録、市空き家バンク HP 上で公開し、空き家の購入・賃借を希望する方へ紹介しマッチングにつなげる制度

新しい生活様式

令和2年5月4日、国の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言において、再び感染が拡大しないよう、長丁場に備え、「新しい生活様式」に切り替える必要があるとして、具体的な実践例が示された。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、飛沫感染や接触感染、近距離での会話への対策について、日常生活に持続的に定着させる暮らし方のこと。

アンコンシャス・バイアス

無意識の思い込み。

I号認定

対象者は保育の必要性の認定を受けない満3歳以上の未就学の子ども。

イノベーション

技術革新のこと。大きな変化、などの意味を持つこともある。

イノベーターズスクール

農村で夢や仲間や資源を、みつけ、つなげ、しごととして、カタチにすることを支援するために、丹波篠山に開講された農村での起業・継業スクール。

インクルーシブ教育

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組みであり、障がいのある者が「general education system (教育制度一般)」から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

インバウンド

主に日本の観光業界において外国人の訪日旅行、あるいは訪日外国人観光客などの意味で用いられる。

インフラ

インフラストラクチャーの略で、生活や産業などの経済活動を営む上で不可欠な社会基盤と位置づけられ、公共の福祉のため整備・提供される施設の総称。

ウェブ会議

インターネットを通じて遠隔地同士で映像・音声のやり取りや、資料の共有などを行うことができるコミュニケーションツールのこと。

オーラルフレイル健診

定年などをきっかけに、社会との関係がなくなることで、口に関心がなくなり、噛めない食品は増え、滑舌が低下し、やがて口の機能が低下し、食べる機能障害へと移行しやすいとされています。

か行

貸出密度

公共図書館活動に関する計量的指標で、住民ひとりあたりの貸出延べ冊数を指す。貸出延べ冊数を人口で割った値。

環境利活用・保全活動

環境を活かしたまちづくりをする活動(環境利活用)と、自然環境や生物多様性の保全を行う活動(環境保全活動)のこと。

GIGAスクール構想

1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等の学校 ICT 環境を整備・活用することによって、教育の質を向上させ、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現すること。

基礎的汎用能力

社会的、職業的自立に向けて必要な基盤的能力であり、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つから構成される

クリーンエネルギー

二酸化炭素(CO2)や窒素酸化物(NOx)などの有害物質を排出しない、または排出量の少ないエネルギー源のこと。主なものに、太陽光、水力、風力、バイオマスなどがあげられる。

計画収集

市町村が行うごみ収集のこと。丹波篠山市ではごみステーション収集、粗大ごみ収集、資源ごみ拠点回収、雑がみ回収ボックスでの回収が該当する。

下水道水洗化率

施設の利用効率性を確認する指標。公共用水域の水質保全や、使用料収入の増加・確保の観点から100%になっていることが望ましく、処理区域内人口のうち実際に下水道へ接続して污水处理をしている割合を表している。

○ 水洗化率(%) = 下水道接続済人口 ÷ 処理区域内人口 × 100

健康教育

依頼のあった地域、事業所等へ出向き、健康に関する講話を行う事業。

こ食

6つの「こ食」（孤食、個食、固食、小食、粉食、濃食）があり、このような食べ方は、からだだけでなく心の成長にも悪影響を与えるとされており、好き嫌いにつながったり、発育に必要な栄養が足りなくなったり、社会性や食事のマナーが身につかなくなったり様々な弊害が出てくる。

さ行

財政調整基金

年度間の財源や財政需要の変動に備えて積み立てる貯金に相当するもの。

経常収支比率

人件費、公債費等の経常的な経費に、市税、地方交付税等を中心とする経常的な一般財源収入が充当されている割合。財政の弾力性を表し、低いほど弾力性がある。

サテライトオフィス

企業の本社・本拠地から離れた場所に設置する小規模のオフィス。

里づくり計画

丹波篠山市緑豊かな里づくり条例に基づき、緑豊かな地域環境の保全・創造並びに適正な土地利用を図り良好な住環境を保全するため、地域住民が主体となって開発行為や建築行為に関する立地基準などの地区独自のルールを定めた計画。

3 R

Reduce（リデュース（発生抑制））、Reuse（リユース（再利用））、Recycle（リサイクル（再資源化））の3つの頭文字Rの総称で、環境配慮に関するキーワード。

事前登録型本人通知制度

第三者からの請求に応じて住民票や戸籍謄本を交付したとき、その交付した事実を事前登録されている方に郵便でお知らせする制度。

実質公債費比率

地方自治体における一般財源の規模に対する公債費の割合のこと。

ジェネリック医薬品

新薬（先発医薬品）と同じ有効成分を使っており、品質、効き目、安全性が同等なくすり。厚生労働大臣の承認を受け、国の基準、法律に基づいて製造・販売している。

自伐型林業者

森林組合のような従来型林業に加え、新たな林業の担い手として期待される自伐型林業。所有者から森林を預かり、森林内に道幅2.5m以内を基本とする小さな林内作業道を開設し、長期に渡り持続的に搬出間伐を繰り返し森林経営するもので、初期投資が低いのが特徴。

シビックプライド

地域に誇りを持ち、その地域を良くするために貢献しようとする自負心。

修景助成

丹波篠山市景観計画の歴史地区等で景観形成基準に沿って建物等の形態、意匠、素材等を周囲の町並みに調和する外観にする場合、外観工事費の一部を助成している。

重層的支援体制整備事業

制度の縦割りを解消し、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築を推進するため、①「属性を問わない相談支援」、②「参加支援」、③「地域づくりに向けた支援」の3つの支援を柱とし、これら3つの支援を効果的かつ円滑に実施するため、④多機関協働による支援、⑤アウトリーチ等を通じた継続的支援を新たな機能として強化し、①から⑤までの事業を一体的に実施するもの。

住宅セーフティネット

低額所得者、被災者、高齢者、障害者、子育て世帯、その他住宅の確保に特に配慮を要する者が、民間住宅市場の中で住宅を確保しようとする際に独力では対応困難な事態に直面した場合に対応するために用意されている仕組み。

障がい者基幹相談支援センター

基幹相談支援センターは、地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として以下の事業及び業務を総合的に行うことを目的とする施設。

上水道有収率

施設の稼働状況が収益につながっているかを確認する指標。数値が低いほど漏水などが多く、収益につながっていないことを表している。

$$\text{有収率(\%)} = \text{年間総有収水量} \div \text{年間総配水量} \times 100$$

情報活用能力

コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力であり、さらに、基本的な操作技能やプログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むもの

新興感染症

感染症法の新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症を基本とした感染症を指す。

人財

第2次丹波篠山市環境基本計画では、「人」が何よりも大切な宝と考えています。「宝=財」という思いを込めて、「人材」に代えて「人財」という造語を用いる。

スマート農業

ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業。

待機児童

保留児童のうち、調査日時点において、育児休業中で復職の意思を確認できない、特定保育所のみ
の申込者、等といった特定の条件に当てはまるケースを除外した子ども。

多面的機能支払交付金事業

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動を国県市が支援する。

丹波篠山国際博

2025年大阪・関西万博に合わせて、市内に受け継がれている資源や取り組みを市民や国内外の
方々に知っていただき、私たちの美しい農村を未来へつないでいけるよう、オール市民参加で開催す
る取り組み。

丹波篠山の家

丹波篠山の気候風土・文化に根差した住宅で、一定の要件を満たしたものの。

丹波篠山まちのコンシェルジュ

丹波篠山市に在住、あるいはゆかりの外国人らで構成し、インバウンド対策について、外国人目
線で行政に対し意見やアドバイスを行う組織。

地域子育て支援拠点施設

ささやま子育てふれあいセンター、たんなん子育てふれあいセンター、にしき子育てふれあいセン
ター、こんだ子育てふれあいセンター、おとわの森子育てママフィールド、丹南児童館。

地域展開

部活動を地域スポーツ団体などに委ねる「地域移行」では学校と地域の二項対立の印象を与えか
ねないとの懸念があるため「地域展開」に名称変更。

デマンド型乗合交通

時刻表や決まった運行ルートがなく、AI（人工知能）が予約の状況に応じて運行ルートを考えなが
ら走行する公共交通。

テレワーク

情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。

テーマ型組織

市民活動団体等。

特定基本健診

生活習慣病の発症や重症化の予防のため、内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）に着目
した無料の健診。40歳以上の人から74歳の人を対象。

ニ地域居住

主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点（ホテル等も含む。）をもうける暮らし方のこと

日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するもの。

日本農業遺産

我が国において、重要かつ伝統的な農林水産業が営まれ、固有の農文化や農業生物多様性が育まれている地域（農林水産業システム）であり、日本農業遺産の認定基準に基づき、農林水産大臣により認定されるもの。

入居率

入居戸数（短期空家を含む）÷管理戸数（政策空家等を除く）

認定農業者及び認定新規就農者

職業として農業に取り組む農業者や農業法人が、5年後の農業経営計画を作成し市長が認定した者。認定農業者や認定新規就農者になると、低利な資金の利用や補助事業の活用などの支援がある。

ネイチャーポジティブ

「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。

農都のめぐみ農産物認証制度

持続可能な農業の実現と地域ブランドの強化を目的に、環境や生きものに配慮して農産物の生産に取り組む生産団体を認定する制度。

は行

配本所

中央図書館や市民センター図書コーナーに行かなくても、図書の貸出・返却や予約した図書の受け取り等ができる。配本所は市内6カ所に（多紀支所・ハートピアセンター・城東支所・西紀支所・西紀分室・今田支所）設置されている。

8050 問題

80 歳代の親と 50 歳代の子どもの組み合わせによる生活問題。

パーク&ライド

市街地への自動車の流入を抑制するための対策で、市街地周辺部に駐車し、市街地では公共交通機関を利用するシステム。

兵庫県資質向上指標

兵庫県が教員の資質・能力の向上を図るために策定した指標であり、教員がめざすべき姿や、キャ

リアステージに応じた成長の方向性を明確に示したもの。

ふるさと教育

体験教育や学校教育活動全体を通じた道徳教育、命の大切さや共生の心を育む人権教育、情報化社会に対応する情報モラル教育、郷土愛を育む教育。

プッシュ型情報発信

データやコンテンツが利用者の端末に自動的に配信される方式。災害情報、電子クーポン、携帯電話の電子メールなど、サーバー側から一方的に送られるものや、既存のテレビ放送・ラジオ放送を指す。

ファミリーサポートセンター

子育て中の方が仕事や急な用事などで子どもの世話ができないときに、一時・臨時的に地域の方が応援する会員制の子育て支援ネットワーク。

ファミトリップ

外国人観光客の誘致促進のため、ターゲットとする国の旅行事業者やブロガー、メディアなどに現地を視察してもらうツアーのことをいう。

保留児童

認可保育所等に入所申し込みを行い入所要件にも該当しているが、定員超過などで入れなかった子ども。

ま行

My助産師制度

担当助産師が妊娠中から妊婦一人一人に寄り添い、妊娠から産前産後ケアまで一貫した継続支援を行うことで、女性自らが積極的に出産に臨み、安心・安全なお産、その後の健やかな育児につなげる支援制度。

マメに見守り隊

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、高齢者や障がいのある方等を地域のみなさんで見守り、支えていくネットワーク。

眠育

睡眠の大切さ、重要さを教え、十分な睡眠を取らせることで生活習慣の改善を促すこと。

森づくり支援員

市の森林施策を推進する、森づくり政策官と森林戦略担当官の総称。森づくり政策官は、森林林業施策に精通し、その知見を活かして森林・林業施策全般の指導助言を行う。一方、森林戦略担当官は、森づくり政策官と連携し、森林所有者と林業事業者との調整を行い施業に繋げて、手入れ不足森林の解消を図る。

ら行

ライドシェア

自動車を相乗りすること。欧米では安価な交通手段として広く浸透しているが、日本の法律では自家用車が有料で客を乗せることは禁止されている。

歴史文化まちづくり資産

歴史文化を活かしたまちづくりを進めるために、全ての文化財を包括する概念として設定した用語。

歴史4館

歴史美術館、武家屋敷安間家史料館、篠山城大書院、青山歴史村。

ローリングストック

蓄える→食べる→補充することを繰り返しながら常に一定量の食品を備蓄する方法。

ローカル・ゼブラ企業

事業を通じて地域課題解決を図り、収益性を確保・継続する企業。

や行

ヤングケアラー

一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どものこと。

UIJターン

Uターン…転職・就職において、Uターンとは、生まれ育った土地から進学や就職などのきっかけで都会へ移住した後、再び生まれ育った土地に戻る（移住する）こと。

Iターン…生まれ育った土地から、故郷とは別の土地に移住すること。

Jターン…生まれ育った土地から進学や就職などのきっかけで都会へ移住した後、生まれ育った土地に近い地方都市に移住すること。

有機JAS

農林水産省が定めた「有機食品の日本農林規格（JAS規格）」に基づき、化学合成農薬や化学肥料、遺伝子組換え技術を使用せず、環境への負荷を可能な限り低減した方法で生産された農産物などに付与される認証制度。

ユネスコ創造都市ネットワーク

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が、創造性を核として持続可能なまちづくりに取り組む都市の連携を進めるため、2004年に創設したもの。

わ行

ワクワク農村

先人たちの努力によって作りあげられた今日の丹波篠山市、この世界に誇れる農村を、未来につなげるため、丹波篠山に住む幸せを実感できること。

(参考) SDGsの各目標の説明

| | |
|---|---|
|  | <p>Goal 1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる</p> |
|  | <p>Goal 2 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する</p> |
|  | <p>Goal 3 あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p> |
|  | <p>Goal 4 全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p> |
|  | <p>Goal 5 ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女児の能力強化を行う</p> |
|  | <p>Goal 6 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する</p> |
|  | <p>Goal 7 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する</p> |
|  | <p>Goal 8 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する</p> |
|  | <p>Goal 9 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る</p> |

| | |
|---|---|
|  | <p>Goal 10 各国内及び各国間の不平等を是正する</p> |
|  | <p>Goal 11 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する</p> |
|  | <p>Goal 12 持続可能な生産消費形態を確保する</p> |
|  | <p>Goal 13 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる</p> |
|  | <p>Goal 14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する</p> |
|  | <p>Goal 15 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する</p> |
|  | <p>Goal 16 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する</p> |
|  | <p>Goal 17 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化</p> |